

BGP への OSPF ルートの再配送の理解

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[ネットワーク構成](#)

[OSPF 内部 \(Intra- および Inter- エリア \) ルートだけを BGP へ再配布する方法](#)

[OSPF 外部 \(タイプ 1 および 2 \) ルートだけを BGP へ再配布する方法](#)

[OSPF 外部タイプ 1 およびタイプ 2 ルートのみの BGP への再配布](#)

[BGP への OSPF 内部及び外部ルートの再配布](#)

[BGP への OSPF NSSA 外部ルートの再配布](#)

[OSPF の再配布オプションの変更](#)

[iBGP で学習したルートを EIGRP、OSPF などの IGP に再配布できない](#)

[OSPF デフォルト ルートを BGP に再配布する](#)

[関連情報](#)

概要

このテクニカル ノートでは、Open Shortest Path First (OSPF) から Border Gateway Protocol (BGP; ボーダー ゲートウェイ プロトコル) への再配布が Cisco ルータ上でどのように動作するかについて説明しています。OSPF から BGP への再配布の動作については、[RFC 1403](#) に概要が説明されています。

OSPF ルートには次の数種類があります。

- エリア内 : マルチエリア OSPF ネットワークでは、エリア内を起点とするルートは、同じエリア内のルータには、エリア内ルートとして認識されています。 `show ip route` コマンドの出力では、これらのルートには O というフラグが付いています。
- エリア間 : OSPF のエリア境界ルータ (ABR) を超えるルートは、OSPF エリア間ルートとして認識されています。 `show ip route` コマンドの出力では、これらのルートには O IA というフラグが付いています。エリア内ルートとエリア間ルートは両方とも、インターフェイスが OSPF の `network` コマンドの処理対象になる場合に OSPF 自身によって生成されるので、OSPF 内部ルートとも呼ばれます。
- 外部タイプ 2 または外部タイプ 1 : 接続済み、スタティック、またはその他のルーティングプロトコルなどの OSPF に再配布されたルートは、外部タイプ 2 または外部タイプ 1 として認識されています。 `show ip route` コマンドの出力では、これらのルートには O E1 または O E2 というフラグが付いています。
- NSSA 外部タイプ 2 または NSSA 外部タイプ 1 : エリアが Not-So-Stub Area (NSSA) として設定され、ルートが OSPF に再配布される場合、ルートは NSSA 外部タイプ 2 または

NSSA 外部タイプ 1 として認識されています。これらのルートは、`show ip route` コマンドの出力で O N2 または O N1 としてフラグが付けられます。外部と NSSA タイプ 2 または 1 の違いについてはこのドキュメントで扱う範囲を超えていますのでここでは説明しません。詳細は『[OSPF デザインガイド](#)』を参照してください。

デフォルトでは、OSPF から BGP へのルートの再配布は行われません。再配布を設定する必要があります。`route-map` コマンドを使用すると、OSPF から BGP への再配布の際にルートのフィルタリングが可能です。再配布時には、それぞれのルートを再配布するために `internal`、`external`、`nssa-external` などの特定のキーワードが必要です。

[前提条件](#)

[要件](#)

このドキュメントを使用する前に、OSPF のルート タイプについて理解しておく必要があります。

[使用するコンポーネント](#)

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

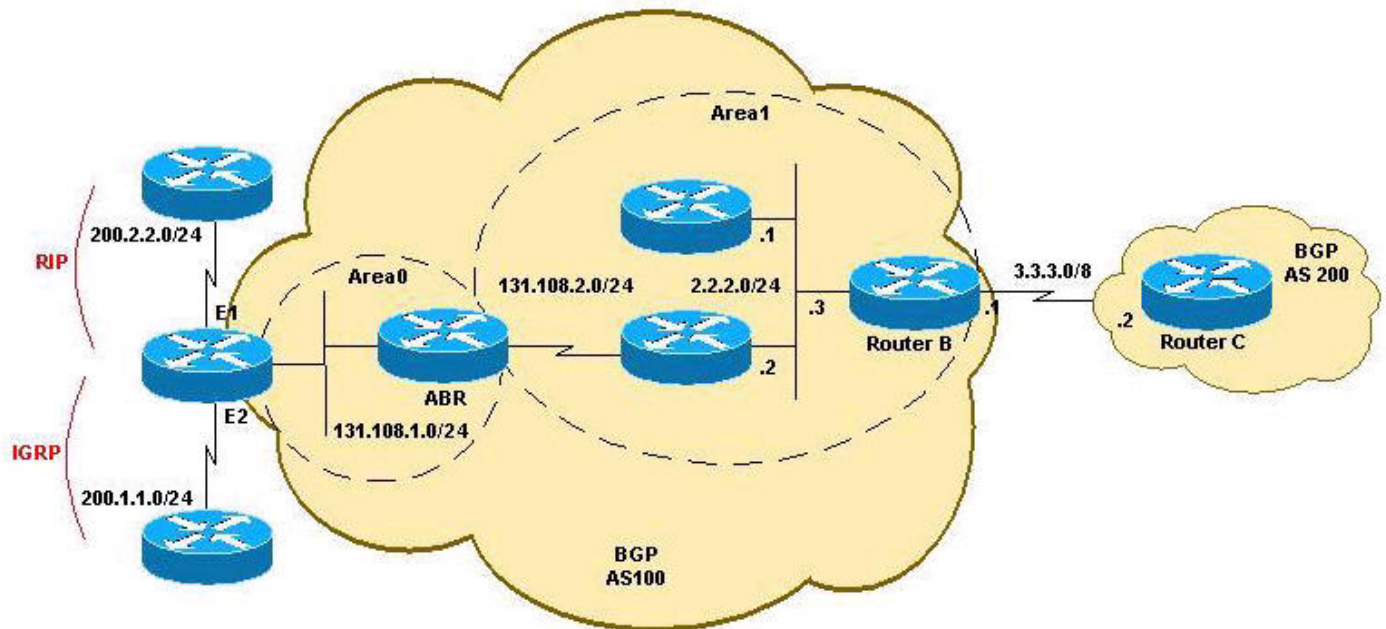
このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのような作業についても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

[ネットワーク構成](#)

次に、OSPF ルートを BGP に再配布する 4 つのケースについて説明します。次のネットワークダイアグラムは、最初の 3 つのケースに当てはまります。4 番目のケースのダイアグラムと設定については、『[OSPF NSSA 外部ルートの BGP への再配布](#)』セクションを参照してください。



OSPF 内部 (Intra- および Inter- エリア) ルートだけを BGP へ再配布する方法

OSPF から BGP への再配布をキーワードなしで設定すると、デフォルトでは、OSPF のエリア内ルートとエリア間ルートだけが再配布されます。OSPF のエリア内ルートとエリア間ルートを再配布するには、`router bgp` で `redistribute` コマンドと共に `internal` キーワードを使用します。

次の設定は、エリア内ルート (131.108.2.0/24) とエリア間ルート (131.108.1.0/24) だけを BGP に再配布するルータ B の新しい設定で、OSPF の内部 (エリア内およびエリア間) ルートだけが BGP に再配布されます。

RTB

```
hostname RTB
!
interface Ethernet0/0
 ip address 2.2.2.3 255.255.255.0
!
interface Serial1/0
 ip address 3.3.3.1 255.0.0.0
!
router ospf 1
 network 2.0.0.0 0.255.255.255 area 1
!
router bgp 100
 redistribute ospf 1

!-- This redistributes only OSPF intra- and inter-area
routes into BGP. neighbor 3.3.3.2 remote-as 200 ! end
RTB# show ip route Codes: C - connected, S - static, R -
RIP, M - mobile, B - BGP D - EIGRP, EX - EIGRP external,
O - OSPF, IA - OSPF inter area N1 - OSPF NSSA external
type 1, N2 - OSPF NSSA external type 2 E1 - OSPF
external type 1, E2 - OSPF external type 2 i - IS-IS, L1
- IS-IS level-1, L2 - IS-IS level-2, ia - IS-IS inter
area * - candidate default, U - per-user static route, o
- ODR P - periodic downloaded static route Gateway of
last resort is not set 2.0.0.0/24 is subnetted, 1
```

```
subnets C 2.2.2.0 is directly connected, Ethernet0/0 C
3.0.0.0/8 is directly connected, Serial1/0 O E2
200.1.1.0/24 [110/20] via 2.2.2.2, 00:16:17, Ethernet0/0
O E1 200.2.2.0/24 [110/104] via 2.2.2.2, 00:00:41,
Ethernet0/0 131.108.0.0/24 is subnetted, 2 subnets O
131.108.2.0 [110/74] via 2.2.2.2, 00:16:17, Ethernet0/0
O IA 131.108.1.0 [110/84] via 2.2.2.2, 00:16:17,
Ethernet0/0 RTB#
```

次の場合、ルータ B が再配布するのは OSPF の内部ルートだけです。

```
RTB# show ip bgp BGP table version is 10, local router ID is 192.168.1.7 Status codes: s
suppressed, d damped, h history, * valid, > best, i - internal, r RIB-failure, S Stale Origin
codes: i - IGP, e - EGP, ? - incomplete Network Next Hop Metric LocPrf Weight Path *> 2.2.2.0/24
0.0.0.0 0 32768 ? *> 131.108.1.0/24 2.2.2.2 84 32768 ? *> 131.108.2.0/24 2.2.2.2 74 32768 ? RTB#
```

次の場合、ルータ C は BGP からこれらのルートを学習しています。

```
RTC# show ip route Codes: C - connected, S - static, R - RIP, M - mobile, B - BGP D - EIGRP, EX
- EIGRP external, O - OSPF, IA - OSPF inter area N1 - OSPF NSSA external type 1, N2 - OSPF NSSA
external type 2 E1 - OSPF external type 1, E2 - OSPF external type 2 i - IS-IS, L1 - IS-IS
level-1, L2 - IS-IS level-2, ia - IS-IS inter area * - candidate default, U - per-user static
route, o - ODR P - periodic downloaded static route Gateway of last resort is not set 2.0.0.0/24
is subnetted, 1 subnets B 2.2.2.0 [20/0] via 3.3.3.1, 00:11:19 C 3.0.0.0/8 is directly
connected, Serial0/0 131.108.0.0/24 is subnetted, 2 subnets B 131.108.2.0 [20/74] via 3.3.3.1,
00:03:56 B 131.108.1.0 [20/84] via 3.3.3.1, 00:03:28 RTC#
```

OSPF 外部 (タイプ 1 および 2) ルートだけを BGP へ再配布する方法

OSPF の外部ルートを BGP に再配布するには、`router bgp` で `redistribute` コマンドに `external` キーワードを使用します。 `external` キーワードを使用する場合、次の 3 つの選択肢があります。

- 外部タイプ 1 とタイプ 2 の両方を再配布する (デフォルト)
- タイプ 1 を再配布する
- タイプ 2 を再配布する

コンフィギュレーション モードで次のようにコマンドを入力します。

```
RTB(config-router)# router bgp 100 RTB(config-router)# redistribute ospf 1 match external
```

ルータ B の次の設定では、OSPF の外部ルートだけが再配布されますが、再配布されるのはタイプ 1 とタイプ 2 の両方です。

```
RTB
hostname RTB
!
interface Ethernet0/0
 ip address 2.2.2.1 255.0.0.0
!
interface Serial1/0
 ip address 3.3.3.1 255.0.0.0
!
router ospf 1
 network 2.0.0.0 0.255.255.255 area 1
!
router bgp 100
 redistribute ospf 1 match external 1 external 2 !---
 This redistributes ONLY OSPF External routes, !--- but
 both type-1 and type-2. neighbor 3.3.3.3 remote-as 200 !
```

```
end
```

注: 設定には `match external 1 external 2` と指定されていますが、入力したコマンドは `redistribute ospf 1 match external` でした。OSPF では、設定にある「external 1 external 2」が自動的に末尾に追加されるので、通常はこのようにします。OSPF の external 1 と external 2 の両方のルートに一致し、両方のルートが BGP に再配布されます。

次の場合、ルータ B が再配布するのは OSPF の外部ルートだけです。

```
RTB# show ip bgp BGP table version is 21, local router ID is 192.168.1.7 Status codes: s
suppressed, d damped, h history, * valid, > best, i - internal, r RIB-failure, S Stale Origin
codes: i - IGP, e - EGP, ? - incomplete Network Next Hop Metric LocPrf Weight Path *> 200.1.1.0
2.2.2.2 20 32768 ? *> 200.2.2.0 2.2.2.2 104 32768 ? RTB#
```

次の場合、ルータ C はこれら 2 つの OSPF の外部ルートに関して BGP から学習します。

```
RTC# show ip route Codes: C - connected, S - static, I - IGRP, R - RIP, M - mobile, B - BGP D -
EIGRP, EX - EIGRP external, O - OSPF, IA - OSPF inter area N1 - OSPF NSSA external type 1, N2 -
OSPF NSSA external type 2 E1 - OSPF external type 1, E2 - OSPF external type 2, E - EGP i - IS-
IS, L1 - IS-IS level-1, L2 - IS-IS level-2, * - candidate default U - per-user static route, o -
ODR Gateway of last resort is not set B 200.1.1.0/24 [20/20] via 3.3.3.1, 00:01:43 B
200.2.2.0/24 [20/0] via 3.3.3.1, 00:01:43 C 3.0.0.0/8 is directly connected, Serial0/0
```

OSPF 外部タイプ 1 およびタイプ 2 ルートのみの BGP への再配布

ルータ B の `router bgp 100` で次のコマンドを入力すれば、OSPF 外部タイプ 1 のルートだけを再配布できます。

```
router bgp 100
  redistribute ospf 1 match external 1
```

ルータ B の BGP テーブルには、外部タイプ 1 のルートだけが BGP に再配布されており、他のすべての OSPF ルートは BGP に再配布されていないことが示されています。

```
RTB# show ip bgp BGP table version is 24, local router ID is 192.168.1.7 Status codes: s
suppressed, d damped, h history, * valid, > best, i - internal, r RIB-failure, S Stale Origin
codes: i - IGP, e - EGP, ? - incomplete Network Next Hop Metric LocPrf Weight Path *> 200.2.2.0
2.2.2.2 104 32768 ? RTB#
```

同様に、ルータ B の `router bgp 100` で次のコマンドを入力すれば、OSPF 外部タイプ 2 のルートだけを再配布できます。

```
router bgp 100
  redistribute ospf 1 match external 2
```

BGP への OSPF 内部及び外部ルートの再配布

この場合は、`internal` と `external` の両方のキーワードを使用することにより、すべての OSPF ルートが BGP に再配布されます。この場合のルータ B の設定を次に示します。

RTB

```
hostname RTB
!
interface Ethernet0/0
  ip address 2.2.2.1 255.0.0.0
!
interface Serial1/0
  ip address 3.3.3.1 255.0.0.0
!
router ospf 1
```

```
network 2.0.0.0 0.255.255.255 area 1
!
router bgp 100
  redistribute ospf 1 match internal external 1 external
  2 !--- This redistributes all OSPF routes into BGP.
neighbor 3.3.3.3 remote-as 200 ! end
```

ここでも、設定で **external** が **external 1 external 2** に置き換えられています。どちらか特定の外部ルートを BGP に再配布する必要がない限り、通常はこのようにします。設定変更を実行すると、ルータ B はすべての OSPF ルートを再配布し、ルータ C は BGP からすべてのルートの学習を開始します。

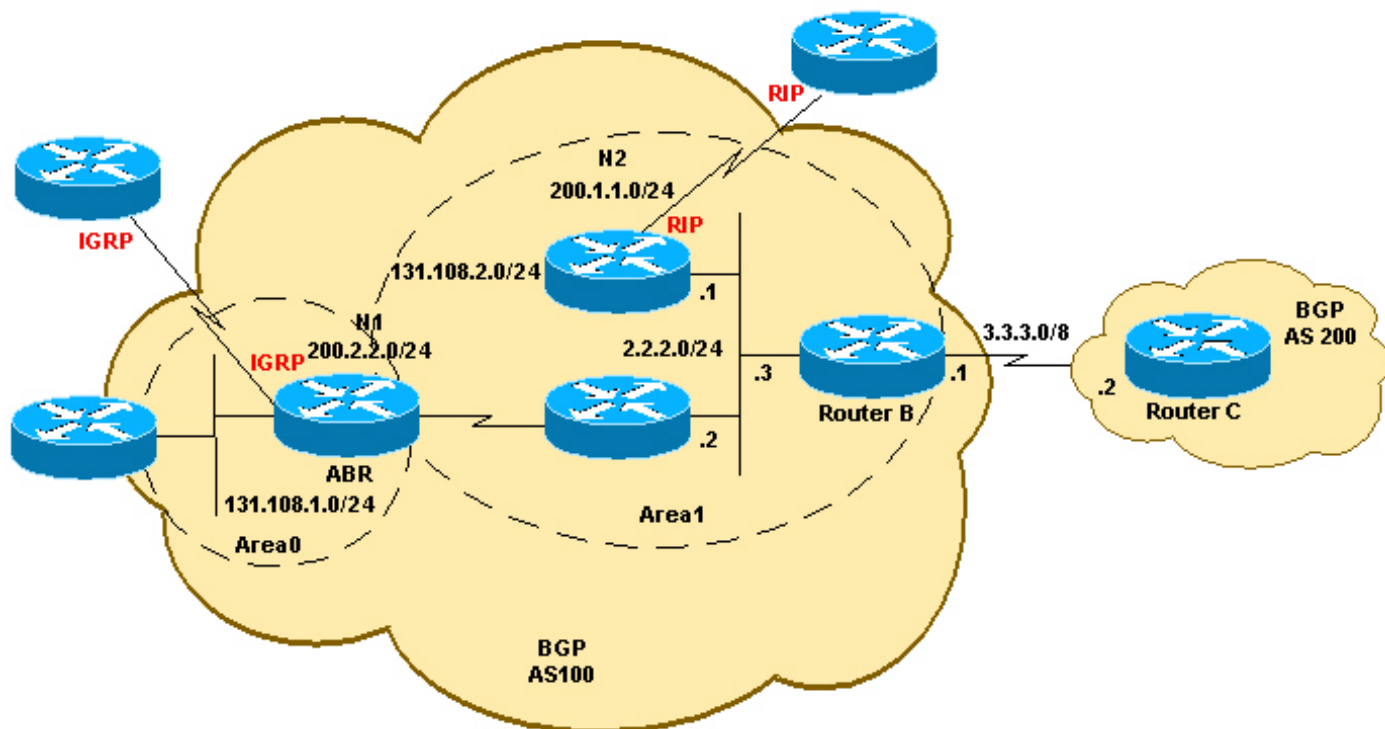
```
RTB# show ip bgp BGP table version is 30, local router ID is 192.168.1.7 Status codes: s
suppressed, d damped, h history, * valid, > best, i - internal, r RIB-failure, S Stale Origin
codes: i - IGP, e - EGP, ? - incomplete Network Next Hop Metric LocPrf Weight Path * > 2.2.2.0/24
0.0.0.0 0 32768 ? * > 131.108.1.0/24 2.2.2.2 84 32768 ? * > 131.108.2.0/24 2.2.2.2 74 32768 ? * >
200.1.1.0 2.2.2.2 20 32768 ? * > 200.2.2.0 2.2.2.2 104 32768 ? RTB# RTC# sh ip route Codes: C -
connected, S - static, R - RIP, M - mobile, B - BGP D - EIGRP, EX - EIGRP external, O - OSPF, IA
- OSPF inter area N1 - OSPF NSSA external type 1, N2 - OSPF NSSA external type 2 E1 - OSPF
external type 1, E2 - OSPF external type 2 i - IS-IS, L1 - IS-IS level-1, L2 - IS-IS level-2, ia
- IS-IS inter area * - candidate default, U - per-user static route, o - ODR P - periodic
downloaded static route Gateway of last resort is not set 2.0.0.0/24 is subnetted, 1 subnets B
2.2.2.0 [20/0] via 3.3.3.1, 00:01:24 C 3.0.0.0/8 is directly connected, Serial0/0 B 200.1.1.0/24
[20/20] via 3.3.3.1, 00:01:24 B 200.2.2.0/24 [20/104] via 3.3.3.1, 00:01:24 131.108.0.0/24 is
subnetted, 2 subnets B 131.108.2.0 [20/74] via 3.3.3.1, 00:01:24 B 131.108.1.0 [20/84] via
3.3.3.1, 00:01:24 RTC#
```

BGP への OSPF NSSA 外部ルートの再配布

このケースは、Not-So-Stubby Area (NSSA) のルートだけが BGP に再配布される特別なケースです。このケースは、「[OSPF 外部 \(タイプ 1 および 2\) ルートのための BGP への再配布](#)」セクションに説明されているケースと非常によく似ています。唯一の違いは、単に外部ルートではなく、NSSA 外部ルートとのマッチングを BGP が行うようになっていることだけです。次に示すルータ B のルーティングテーブルには、それらの OSPF NSSA 外部ルートが示されています。

```
RTB# show ip route Codes: C - connected, S - static, I - IGRP, R - RIP, M - mobile, B - BGP D -
EIGRP, EX - EIGRP external, O - OSPF, IA - OSPF inter area N1 - OSPF NSSA external type 1, N2 -
OSPF NSSA external type 2 E1 - OSPF external type 1, E2 - OSPF external type 2, E - EGP i - IS-
IS, L1 - IS-IS level-1, L2 - IS-IS level-2, ia - IS-IS inter area * - candidate default, U -
per-user static route, o - ODR P - periodic downloaded static route Gateway of last resort is
not set O N2 200.1.1.0/24 [110/20] via 2.2.2.1, 00:22:53, Ethernet0 O N1 200.2.2.0/24 [110/20]
via 2.2.2.2, 00:22:53, Ethernet0 O IA 131.108.1.0/24 [110/20] via 2.2.2.2, 00:22:53, Ethernet0 O
131.108.2.0/24 [110/20] via 2.2.2.2, 00:22:53, Ethernet0 C 2.0.0.0/8 is directly connected,
Ethernet0 C 3.0.0.0/8 is directly connected, Serial1
```

このケースで使用されているのは次のネットワーク ダイアグラムです。



このネットワークダイアグラムには、ルータ B が OSPF N1 と N2 の両方のルートを受信することが示されています。nssa-external キーワードだけが使用されていると、デフォルトでは N1 と N2 の両方が再配布されます。次のようにルータ B を設定すると、OSPF N1 (200.1.1.0/24) と OSPF N2 (200.2.2.0/24) のルートを BGP に再配布できるようになります。

```

RTB
hostname RTB
!
interface Ethernet0/0
 ip address 2.2.2.1 255.0.0.0
!
interface Serial11/0
 ip address 3.3.3.1 255.0.0.0
!
router ospf 1
 network 2.0.0.0 0.255.255.255 area 1
nssa
!
router bgp 100
 redistribute ospf 1 match nssa-external 1 nssa-external
 2 !--- This redistributes only OSPF NSSA-external routes
  !--- Type-1 and Type-2 into BGP. neighbor 3.3.3.3
 remote-as 200 ! end

```

注: OSPF の外部設定の場合と同様に、上記の設定には **match nssa-external 1 nssa-external 2** と指定されていますが、入力したコマンドは **redistribute ospf 1 match external** でした。OSPF では、設定にある「nssa-external 1 nssa-external 2」が自動的に末尾に追加されるので、通常はこのようにします。これにより、OSPF N1 と OSPF N2 の両方のルートに一致し、両方のルートが BGP に再配布されます。

ルータ B の設定を変更すると、ルータ B は OSPF NSSA 外部ルートを再配布し、ルータ C は BGP から OSPF NSSA 外部ルートの学習を開始します。

RTB# **show ip route** Codes: C - connected, S - static, R - RIP, M - mobile, B - BGP D - EIGRP, EX - EIGRP external, O - OSPF, IA - OSPF inter area N1 - OSPF NSSA external type 1, N2 - OSPF NSSA

external type 2 E1 - OSPF external type 1, E2 - OSPF external type 2 i - IS-IS, L1 - IS-IS level-1, L2 - IS-IS level-2, ia - IS-IS inter area * - candidate default, U - per-user static route, o - ODR P - periodic downloaded static route Gateway of last resort is not set 2.0.0.0/24 is subnetted, 1 subnets C 2.2.2.0 is directly connected, Ethernet0/0 C 3.0.0.0/8 is directly connected, Serial1/0 O N2 200.1.1.0/24 [110/94] via 2.2.2.1, 00:11:12, Ethernet0/0 O N1 200.2.2.0/24 [110/20] via 2.2.2.2, 00:12:23, Ethernet0/0 131.108.0.0/24 is subnetted, 2 subnets O 131.108.2.0 [110/74] via 2.2.2.2, 00:12:23, Ethernet0/0 O IA 131.108.1.0 [110/84] via 2.2.2.2, 00:12:11, Ethernet0/0 RTB# RTB# **show ip bgp** BGP table version is 21, local router ID is 3.3.3.1 Status codes: s suppressed, d damped, h history, * valid, > best, i - internal, r RIB-failure, S Stale Origin codes: i - IGP, e - EGP, ? - incomplete Network Next Hop Metric LocPrf Weight Path * > 200.1.1.0 2.2.2.2 94 32768 ? * > 200.2.2.0 2.2.2.1 20 32768 ? RTB# RTC# **show ip route** Codes: C - connected, S - static, R - RIP, M - mobile, B - BGP D - EIGRP, EX - EIGRP external, O - OSPF, IA - OSPF inter area N1 - OSPF NSSA external type 1, N2 - OSPF NSSA external type 2 E1 - OSPF external type 1, E2 - OSPF external type 2 i - IS-IS, L1 - IS-IS level-1, L2 - IS-IS level-2, ia - IS-IS inter area * - candidate default, U - per-user static route, o - ODR P - periodic downloaded static route Gateway of last resort is not set C 3.0.0.0/8 is directly connected, Serial0/0 B 200.1.1.0/24 [20/94] via 3.3.3.1, 00:02:06 B 200.2.2.0/24 [20/20] via 3.3.3.1, 00:02:06 RTC#

OSPF の外部ルートの場合と同様に、OSPF N1 ルートだけを再配布するには、ルータ B の router BGP 100 で次のコマンドを入力します。

```
router bgp 100
  redistribute ospf 1 match nssa-external 1 !--- This redistributes only OSPF NSSA-external !---
  Type-1 routes into BGP.
```

OSPF N2 ルートだけを再配布するには、ルータ B の router BGP 100 で次のコマンドを入力します。

```
router bgp 100
  redistribute ospf 1 match nssa-external 2 !--- This redistributes only OSPF NSSA-external !---
  Type-2 routes into BGP.
```

注：ルート マップは、OSPF タイプ 1/2 を BGP に再配布する場合にも使用できます。詳細については、「[OSPF E2 を BGP に再配布する](#)」を参照してください。

OSPF の再配布オプションの変更

連続して設定を変更すると設定がどのように変わるかを理解しておくことが重要です。match オプションを指定した新しいコマンドは以前のコマンドを上書きするのではなく、以前のコマンドに追加されます。次の例では、再配布なしの状態から始めて、設定コマンドのシーケンスがどのように再配布に影響するかを示します。

```
R4# conf t R4(config)# router bgp 100 R4(config-router)# redistribute ospf 1 match internal
R4(config-router)# ^Z !--- Initially, we redistribute internal OSPF routes into BGP 100. R4# sh
run | i redistribute ospf redistribute ospf 1 match internal R4# conf t R4(config)# router bgp
100 R4(config-router)# redistribute ospf 1 match external R4(config-router)# ^Z !--- With this
second command, we tell BGP !--- to also redistribute external OSPF routes. R4# sh run | i
redistribute ospf redistribute ospf 1 match internal external 1 external 2 R4# R4# conf t
R4(config)# router bgp 100 R4(config-router)# no redistribute ospf 1 match external 2 R4(config-
router)# ^Z !--- With this no command, we only disable the !--- redistribution of external type
2 into BGP. !--- All other types of routes previously configured remain. R4# sh run | i
redistribute ospf redistribute ospf 1 match internal external 1 !--- As you can see, internal
and external type 1 remain. R4# conf t R4(config)# router bgp 100 R4(config-router)# no
redistribute ospf 1 match internal external 1 R4(config-router)# ^Z !--- Now, with this no
command, which includes all configured !--- keywords, it is important to note that we !--- still
do not disable the redistribution fully. !--- We only removed the keyword. After this, !--- the
IOS still acts as default-redistributing !--- internal routes only. R4# sh run | i redistribute
ospf redistribute ospf 1 R4# conf t R4(config)# router bgp 100 R4(config-router)# no
redistribute ospf 1 !--- Always use this command in order to completely !--- disable
redistribution. R4(config-router)# ^Z R4# sh run | i redistribute ospf R4#
```


iBGP で学習したルートを EIGRP、OSPF などの IGP に再配布できない

ルート再配布は、1つのプロトコルを使用して学習されたルートを別のルーティングプロトコルに伝搬するために使用されます。BGP を IGP に再配布する場合は、eBGP が学習したルートのみが再配布されます。ルーティングループの発生を防止するために、ルータ上で認識されている、iBGP が学習したルートは IGP に挿入されません。

デフォルトでは、IGP への iBGP の再配布は無効になっています。IGP への iBGP ルートの再配布を有効にするには、**bgp redistribute-internal** コマンドを発行します。ルートマップを使用して特定のルートを IGP に再配布する場合は、事前の注意が必要です。

iBGP ルートに OSPF を再配布するための設定例を次に示します。

```
router bgp 65345
bgp redistribute-internal
!
router ospf 100
redistribute bgp 65345 subnets
```

注: 内部ゲートウェイプロトコルへの内部ボーダーゲートウェイプロトコル (iBGP) ルートの再配布により、自律システム (AS) 内でルーティングループが発生する可能性があります。これは推奨しません。ルートフィルタは IGP にインポートされる情報を制御するように設定する必要があります。

OSPF デフォルトルートを BGP に再配布する

デフォルトルートを BGP に再配布するには、**network statement** と **default-information originate** を使用します。この例では、OSPF デフォルトルートを BGP に再配布します。これは、ルートマップの作成と標準 ACL で許可されているデフォルトネットワークの配信によって実行されます。

```
!
route-map map_default_only permit 10

match ip address acl_default_only

!

ip access-list standard acl_default_only

permit 0.0.0.0

!

router bgp 64601
```

```
network 0.0.0.0 redistribute ospf 1 route-map map_default_only default-information originate !-- distributes the default route in bgp !
```

設定後、[clear ip bgp ?](#) コマンドを使用して、[bgp セッションをクリア](#)します。

関連情報

- [OSPF に関するサポート ページ \(英語\)](#)

- [BGP に関するサポート ページ](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)